

Capo. 2 1-マール (En)  
Capo. 0. オープンD

思いは遠く

En D C D En

En D En  
思いは遠くまぶたの裏側

En D En  
戻らない日々かすかな記憶

C G  
遠くの空の雲の合間に見下ろす地平

C G  
その手前に同じ高さで稜線続く

En D En  
憧れていたピークハントで

En D En  
思いがつのるやまはみ見つめる

C G  
自分を探し何かを探し歩き続けた

C G D  
その記憶は今になつて色褪せな...

G C An G  
あの心と考えて救われることなく

G C An G  
いたすらに直水のことだけやれは...

G C An G  
日常の雑多にまみれることなく

G C An G  
いつかのことだけやれる幸せを感じる

終わったことはすぐに忘れる

都合のいいことだけを残して

長く生きた今の自分は随分ズルく

あの頃のように悩み続けることなくなった

憧れること今はなしだろう

揺れる心とときめきをまめ

自分を探し何かを探し歌い続ける

その時だけが遠い思いと一つになる

あの心と考えて救われることなく

いたすらにできることだけやれは...

日常の雑多にまみれることなく

いつかのことだけやれる幸せを感じる

Capo. 5 1-マール(G)  
Capo. 3 オープンD

ウキウキする夏空

G C C G G C C G D7

<sup>C</sup>夏空<sup>G</sup>見ていると<sup>D</sup>ウキウキ<sup>G</sup>してくるのほなせ<sup>D</sup> <sup>G</sup>D D7

<sup>G</sup>ムシムシ<sup>Am7</sup>するこの頃<sup>D7</sup> <sup>D7</sup>これからどうなるか<sup>G</sup>

<sup>G</sup>心配<sup>Am7</sup>する傍らでも<sup>D7</sup>テンションは<sup>G</sup>上がる

<sup>Am7</sup>幼い頃<sup>G</sup>の思い出<sup>D</sup> 一日<sup>G</sup>昆虫採集

<sup>Am7</sup>今でも<sup>G</sup>高原<sup>D</sup>に行けば<sup>G</sup>あの頃<sup>G</sup>に出会える

<sup>G</sup>何か<sup>C</sup>する<sup>G</sup>こと<sup>G</sup>でなく

<sup>G</sup>特別な<sup>C</sup>こと<sup>G</sup>でなく

1-マール+オープンD

夏空見ているとワクワクしてくるのはなぜ

セルリアンブルーの空 浮かぶ雲見るだけで

気持ち良い事、いそいそ事 妄想 浮かべる

若い頃の思い出 見下ろす雲の上に

両手を上げた姿が くっきり見えることもあった

粗ってたわけではなく

珍しいことではなく

何かすることではなく

特別なことではなく

## いざなみ

はるか野山を伝い歩いて ひとしおに思う

海と山と 神話の世界から

いざなみの力で この世に生まれた

いいことばかりがあったわけでもない

おれと 残したものを 採る者でもないもの

そんな生き方できるはずない、

おれと 思いは確かに通じる

愛する人と 共に作った

かけがえのない、たくましくの世界

また閉じればその先 天の橋から微笑む

森羅万象ひとつひとつ

いざなぎと共にはこの国に残した

最後は別れてしまうのだけれど

お互い 思いは世のため人のため

そんな生き方できるはずない

だけれど 思いは確かに伝わる

強い 思いが 形を変えて

別の道を歩むことになった

また閉じればその先 天の橋から微笑む

はるか野山を伝い歩いて ひとしおに思う

## Capo. 3 1-2IL(D)

## 道

D E<sub>n</sub> A<sub>1</sub> D A<sub>2</sub> D E<sub>n</sub> A<sub>2</sub> DB<sub>n</sub> G A<sub>1</sub> F<sub>th</sub>  
少しのほり気味のまっすぐな道B<sub>n</sub> G A<sub>2</sub> D  
その向こうには何も見えるものなくてB<sub>n</sub> G A<sub>2</sub> F<sub>th</sub>  
今は舗装された単道になってるけどB<sub>n</sub> G A<sub>2</sub> D  
自分の中の印象 乾いた土の道D E<sub>n</sub> A<sub>2</sub> D  
道の他には目に映らなD G A<sub>2</sub> D  
だけど確かにある周りの風景D E<sub>n</sub> A<sub>2</sub> D  
今日の前には三角の形D G A<sub>2</sub> D  
明るく光って心から離れたB<sub>n</sub> F<sub>th</sub> G F<sub>th</sub>  
どこに続くのかわからな、けれどB<sub>n</sub> F<sub>th</sub> G F<sub>th</sub> B<sub>n</sub> A<sub>2</sub>  
これから進んでいこうとする道

## 1-マル

夏の早朝のひとすじの道

遠くを見渡すと右に曲がっている

少し見ただけでは何もない道でも

じっくり見ることで小石や轍<sup>わだち</sup>のあと

ずっと今までここに至るまで

「遍歴の果て」とはうまく言ったものか

遠くの空が少し明るく

どこに向かう道が心から離れない

どこに続くのかわからな、けれど

これから歩いていこうとする道

## 今どきの教訓

目にかけて成長して育った人はいなくなる

これから先を託すつもりが

ある日突然、辞めることを聞いた

終身雇用など古い感覚

乗り換える会社 乗り物にすぎない

社内の垣根はすでになくなって

おもねることのない時代になっている

今時のできる人に限って

押し付けの価値感に従うことはない

理不尽を押し付けて残る人はいなくなる

やる意味と意義を伝えられないまま

任せるだけで軽蔑される

リスペクトできない人に偉そうに

言われる筋合いなどあるわけがない

多様な価値観認めるしかなく

上下序列のない時代になっている

今時のできる人に限って

上司の顔色だけ伺うことはない

Capo. 0 1-2IL (Em)

Capo. 7 1-2IL (Am)

## 夏つけき

Em D Em C D Em

Em C D G  
夏の初めのある日のことだった

Em C D G  
一夕に満ちたいい思い出 儂い記憶

G Am D G  
真心知れた友達に助けられた

G Am D G  
そしてあなたと三人 語りあいました

Em D C B7  
緊張していた僕を友達が和らげるように

Em D C D7 Em  
気の利いた話をして盛り上げてくれた

★ Em D Em  
一度きりなのに

C D Em  
お祭り前なのに

Em D Em  
はっきりとしたこと

C D Em  
憶えていよう

★★

## 1-2IL

まだお酒も飲めなかった ウブだった僕は

ソフトドリンクだけでヤキ=気取って

冗談すら言えずに ただ生真面目に

相槌するだけでときどき間抜けな発言

それでもあの時のあなたの笑顔は明るく

けて作ったものでなく僕に向ってくれた

(★ ~ ★★ くりかえし)

夏つけき 咲く道 帰りの道で

この手を別れる 辛さを感じて

Capo. 5 1-2il (D)  
Capo. 0 オープンGm

遠くやまなみ

1-2il G 4 F#m 2 E 7. 0.  
G F#m E A7 D

D En  
2000メートルにつながる大自然。

F#m D  
山登りでなくワインディングドライブで

D En  
遠くやまなみの雲の上に浮かして

F#m D  
この高峰に立つホテルの駐車場から

G F#m En A7 D  
いつも来る時は家族親族必ず三人以上で

G F#m En A7 D  
随分前にはなかったお義父さんも一諸だった

G F#m  
\* 今もいつもこの上から

F#m A7 D  
僕たちを見守っている

G F#m  
夜には多くの星たちと

F#m A7 D  
街の明かりととくに輝く \*\*

1-2il + オープンGm (D6 D4 Bb D)

今ではそこにわざわざ行かなくても

ライブカメラで見れるようになった

だけど今のこの冷たい空気と

周りから聞こえてくる自然の息吹はな..

思っきり深呼吸 両手広げて上を向いたとたん

飛ばさぬぞうになった帽子押さえて風の強さを知る

山の上に立つ赤い鳥居が

訪れた人を見守っている

行く人帰る人 安全だけではない

山の木々や生き物も一諸に

( \* ~ \*\* くりかえし )